

## 牧原の始まり

### 比嘉憲一（1909・M42）字牧原（04：38）

あぬ一、まあ廃藩ぬ侍ぬ達あちや一さら一良し  
がんち、摂政三司官集まや一に協議さる結果、松山  
御殿ぬ牧原んり、牧場。な一其処んじ耕ち食み  
よ一んりや一に遣らさったくとう。

其処からあんさ一に、な一うれ一百姓やしえ一  
んらんるあくとう、今度おちや一すがんりね一、な一  
あんしんな一命繋じゆる為ね一しわるやるんち、  
牧原んかい派遣さって。その当時、八名ぐらい、  
あぬ侍ぬ達が牧原んかい来に、農業やすん  
りさくとう分からん。と一くれ一ちや一するむんが  
んち。今度おある人ぬ、山原から派遣しわる、百姓  
から派遣しわるやるんりや一に。うぬ耕ちさく  
う、今度な一いよいよ教わりや一にそ一んねやしが。  
あんさ一に、な一うれ一山原ん人んりしん、ただ  
道具持ち来るまでいどうやくとう。

あんさ一に、侍んかい習する意味し、今度おい  
よいよな一山原から来くとう。な一其処牧場やし  
が、と一くり山原のやいすぐとう、耕する為ね一、な  
一作いる為ね一山原ん人ぬ考え方ぬ、山切り  
と一倒さ一に、うぬ道んかい肥茅あ放や一に人んかい  
踏まさ一に、あんさ一いうり上げて、今度お堆肥  
作てい芋お入ったくとう。あぬ一、う一にね一出来  
たしが。うぬ前ぬ話や侍ん達あ分からんるあく  
とう、圃場んかい七ち入ね一大芋んち嬉さし、  
生活そ一たんりぬ話。

あんさ一に、それからまあ八名やしが、今度お  
山原からん相当上がてい来くとう。其処あ良い  
所やんど一さ一に上がてい来れ一。と一、な一良  
い所んりや一に、全員開墾開き一勝負さ一なか  
い。いよいよ今度な一平和んかい戻ていやしが。  
うぬ侍ん、やっぱりな一続々、今度お首里から良  
い所やんでいち上がてい来ん。あんし、其処を  
うと一てい今度な一三十名ぐらいなと一たんり、な  
と一しが。

### 【共通語訳】

廃藩で職を失う士族たちの今後をどうしようか摂政三司官らが集まって協議した。そこで、松山御殿の牧場を耕作させ生活するように決めた。

士族たちは百姓の経験もないので、どうしようかと思いつながらも、生活するためには牧原へ行くしかない、当時八名ほどが牧原にやってきたそうだ。しかし、牧原に来て農業をしようにも、その方法が分からない。さて、どうしたら良いものかと、ある人の提案で山原から百姓を招いて農業を教わることにしたそうだ。それで、山原から百姓が鋤などの農具を持ってやってきたそうだ。

そうして、彼らに農業を手ほどきするために百姓が山原からやってきた。牧原は牧場として使っているの、周囲は山が多いでしょう。そこを畑にするためには、堆肥を作ることが先決だと山原の百姓は考えた。そこで、山原の百姓たちが始めたのは、山を切り開いて出来た道に茅を放り覆った。人が道を通るたびに踏みつけられた茅を堆肥にし、それを畑に入れて芋を植えたら豊作だったそうだ。それまでは、彼らは圃場に植えた芋が七個しかできてないにも関わらず、大きな芋だと喜んでいてさうだよ。

そうして、最初は八名だったのが、ここは良い所だと分かって、山原からもかなりの百姓たちが出て来たわけだ。もう本当に、ここは良い所だといって、皆競って開墾してね。いよいよ生活も安定してきたら、首里に残っていた士族も、良い所だと聞いて続々やってきたそうだ。そして、三十名ぐらいになっていたそうだ。

くんどー じー まちやまうどうん じー くんどー  
今度おうめ土地や松山御殿ぬ土地やし、今度な  
おきなわたいわんせいとう あ をうーじちゆく  
うめ沖繩台南製糖んち在たしが、砂糖黍作てい  
さーたーにー とくる あ くんどー まちやまうどうの  
砂糖煮る所ぬ有と。今度おうめ松山御殿お  
うんま かぶい たいわんせいとうこうじょう かぶい  
其処んかい株入っち、台南製糖工場んかい株入っ  
ちやくと。今度お入っちやる為ねー失敗さーに、  
うめ土地や売らんあれーならんりる立場んかいなた  
くと。

くんどー い  
今度、とーなーうれー、あんしえー入っちよーる  
しんか はんたい う じー わった むん  
人達あ反対。「売てーならんうめ土地や私達あ物るや  
る」とうか。「あー、うれーなーあぬー彼処んかい売り  
わらないん」とうか、今度お松山御殿とうぬいっば  
いかっぱいぬ有てい。

いわゆる  
所謂、なーあぬー、あんしえーならんりち、くぬ  
まちばる をう しんか ていーさーじかん とうじ かにちぢん  
牧原んかい居る人達あ手拭被てい、当時。鉦鼓  
う くわいしゃ ゆ か いわゆる げんだい  
打っち会社んかい寄し掛きてい。所謂なー現代の  
かっこう  
デモみたような恰好やたんり。あんしし、やし、い  
じん し じの ねー  
よいよ錢にん締みらってい、錢お無んるあくと、  
しんか くんどー ま くんどー  
うめ人達あ。さーに、今度な一負きやーにかい、今度  
くわいしゃじー い み いま げんざい  
お会社地んかいなたんりる意味なてい。今、現在  
くわいしゃじー  
ん会社地やるばーて。

くんどー  
あんしやし、なー今度おうりから、まあ、それで  
い しかたー くんどー  
も良いんち、な一仕方ならんるあくと。今度な一  
じーがね はら どうーな むぬか  
地叶え払てい自分達あ物食まんあれーならんりる  
くと いま げんざい せんぜん せんそう  
事んかいなてい。今、現在や、な一、戦前ぬ、戦争、  
せんそうめー はちじっしよたいをう  
くぬ戦争前まで一八十所帯居て一びんや。あんし  
せいねんかい そん いちい のうぎょうはってんちいき  
がな一、青年会ん村ぬ一位ない農 業 発展地域や  
まきばる とくろ くんどー  
るば一、牧原という所は。あんさーなかい、な一今度  
せいねんかい しち はちじゅうめい をう はちじゅう  
おあぬー青年会ん七、八十名ん居い、な一八十  
ちねー ぶらく はってん まちばる いくさ  
家庭びかーぬ部落、発展ぬ牧原やし、戦んか  
うわー いま げんざい ちょうし  
い追ってい、今、現在の調子なとーんりるば一よ。  
だいたいおおよ はなしー  
まあ、大体凡 そうぬふーじーやたる 話。

そしたら、移り住んだこの牧原は、元は松山御殿の土地でしょう。牧原には沖繩台南製糖というサトウキビ製糖工場があって、松山御殿はその株を持っていた。ところが、事業の失敗で、その土地を売らなければならぬ立場に追い込まれた。

牧原に入植した者たちはそのことを知って、「売ってはいけない。この土地は開墾した私たちのものだ」と反対した。「いや、もう製糖会社へ売らなければならぬ」という、松山御殿との一悶着もあったようだ。

そうさせてはならないと、当時、牧原の住民は手拭いを被り、鉦鼓を打ち鳴らしながら会社に押しかけた。現在のいわゆるデモみたいな様相だったそうだ。そうだったが、金銭の交渉で譲歩させられてね、みんなお金は無いものだから、それで、牧原は会社の土地になったということだ。今、現在も会社の土地になつたまま。

そんな経緯で、しょうがない、もう仕方のないことだからね。住民は食べていくためには借地代を払ってでも、生活しなければならなくなったわけだ。戦前、去る大戦前までは八十世帯ほどあったでしょうね。青年会員も七、八十名はいて、村で一番の農業発展地域として栄えていたよ、牧原は。そのように発展していた牧原だったが、戦に追われ牧原を後にして、今、現在に至っているわけだ。まあ、大体そういうことだ。